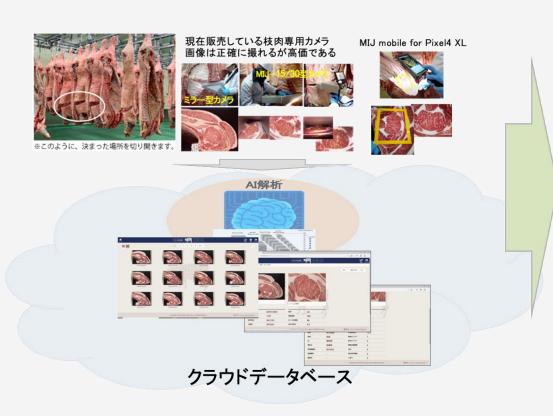
帯広畜産大学発ベンチャー企業 株式会社MIJ labo

枝肉画像 IOT カメラと枝肉データベース構築と畜産プラットフォーム構想

画像解析技術を活用し。グローバルスタンダードな格付と畜産プラットフォームの構築で日本の最高な和牛を世界の富裕層へ

【市場が抱える課題】

- ・日本をはじめ世界の肉用牛の格付は人間の目で行われている
- ・人によって異なる・不公平感
- ・格付データに画像がない 【解決策】



メジャ-メントできる正確な画像 人間で行っていることをAIが再現 リモートセリやリモート相対取引の可能性



画像と解析データをペアでデータベース化 ビッグデータが多方面で利用可能 (育種改良・種雄牛選抜・飼料改良等)

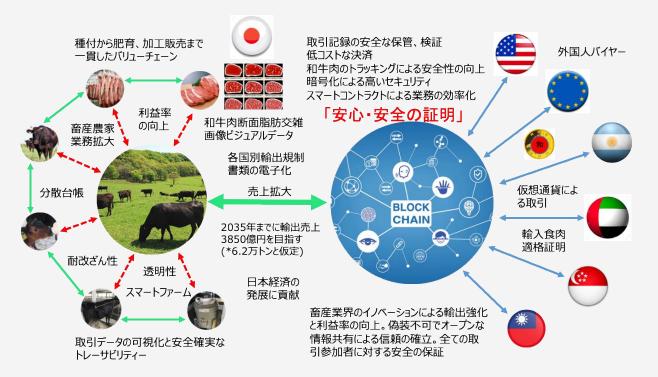
環太平洋の肉用牛の肥育頭数年間約43,000万頭 と畜頭数年間約17,000万頭

> 日本の肉用牛の肥育頭数年間約250万頭 と畜頭数年間約110万頭 内和牛のと畜頭数は年間約46万頭

MIJ laboのビジネスは@1頭解析 = US \$ 5



画像解析技術を活用し、グローバルスタンダードな格付システムに!



将来構想: 畜産業の6次化と グローバルブロックチェーンEコマース

農林水産業の競争力強化と農産物輸出計画

輸出を2030年の輸出目標金額にして3600億円

2019度の<u>牛肉輸出量を4339トン</u>、金額にして<u>297億円</u> 10年間で12倍にするには?

実現するためには、富裕層向海外バイヤーが求める 「安全性を証明する証明書の発行」 は不可欠



〒080-8555 北海道帯広市稲田町西 2 線 1 1 番地 帯広畜産大学 インキュベーションオフィス内 E-mail : info@mij-labo.co.jp